茨城県立大洗高等学校　｜　校長室だより　28 号【やさしい日本語版】

「○○部なのに」と、思っていませんか？



令和 8 年 11 月 10 日（火）発行　文責：新堀　隆久

今週、伝えたいこと

肩書きよりも、目の前にいるその人を見る。



今週、考えてみてください。　「○○部だから」ではなく、目の前にいるその人がどうか。

みなさんこんにちは。文化祭、おつかれさまでした。友達の意外な一面を発見しましたか？

少し前、女子バレー日本代表の選手たちが、ピアスやお化粧のことで SNS などで悪く言われているのを見ました。負けると「チャラチャラしているから負けるんだ」とまで言われます。代表になるまでの努力は、テレビに映る数十秒ではわかりません。関係のないことだけで決めつけられているのを見て、モヤモヤしました。振り返りは、まず何があったかを見ることから。

ただ、私にも似たところがあったと気づきました。前にいた学校は、ある武道の強い学校でした。部員は顧問の先生の前ではきちんとしているのに、先生がいない授業中は、居眠りをしたり反抗したりする生徒もいました。野球部の生徒がよくない行動をすると、「野球部なのに」と思う自分もいました。でも、これはおかしな考え方です。「野球部だから、きちんとしているはずだ」という思いこみは、「日本代表だから、チャラチャラしてはいけない」という考え方と同じです。肩書き（部活や学校の名前など）だけで期待して、ちがうとがっかりする。私にも、そんなくせがあったのかもしれません。

肩書きは、得をさせることもあります。私が就職活動をしていたころ、有名な大学の体育会の人は、大きな会社で有利だと言われていました。でも、肩書きは、人の中身を約束してくれません。

これは、みなさんにも関係があります。本校は、マーチングバンドで全国的に有名です。毎日の練習の結果で、誇りに思っていいことです。「大洗高校の生徒だから」と言われて、胸を張れる自分でいてほしいと思います。でも、見る側に立つと、同じ言葉が少しちがう意味になります。みなさんは、学校名や部活名、見た目やうわさだけで、人をわかったつもりになっていませんか？

大人にも、出身の高校や大学で相手を決めつける人がいます。がんばったことを誇りにするのはいいことですが、その誇りが、ほかの人を決めつける理由になると、話はちがいます。「××高校だから」「○○部だから」ではなく、目の前にいるその人がどうか。あたりまえのようで、むずかしいことです。自分にも言い聞かせています。

文化祭が終わった今週は、振り返りと切りかえの週です。実際に何があったかを見て次に生かし、気持ちを切りかえましょう。